

スタンドアロンOMA (Oracle Management Agent) のインストールの方法

参考資料

Oracle Management Agent だけのインストールについては

https://docs.oracle.com/cd/E74608_01/131/EMBSC/install_agent_new.htm
→ 6.2.2 ホスト・ターゲットの追加ウィザードまたは EM CLI を使用した
スタンドアロン Oracle Management Agent13c のインストール

インストール前の事前作業

- **OMS ホスト**にて、配信用管理エージェント・ソフトウェアを Oracle のサイトからダウンロードを行って入手しておくこと
- 『OMA をインストールする』場合、OMA ホストと **OMS ホスト**の両方に Cygwin が必要となるので、インストールを事前に行っておくこと
- OMA ホストでは、Cygwin をインストールし、SSH サービスを起動する必要がある
ので、SSH サービスのインストールを事前に行っておくこと

https://docs.oracle.com/cd/E74608_01/131/EMBSC/preinstall_req_cygwin_ssh.htm

OMA のインストールの方法についての資料

https://docs.oracle.com/cd/E74608_01/131/EMBSC/install_agent_new.htm

6.2.2.5.1 ホスト・ターゲットの追加ウィザードを使用したスタンドアロン管理
エージェントのインストール

6.2.2.5.3 EM CLI を使用したスタンドアロン管理エージェントのインストール

スタンドアロンOMAのインストール**確認作業**

6.2.2.6 ホスト・ターゲットの追加ウィザードまたは EM CLI を使用してスタンドアロン
管理エージェントをインストールした後に

EMCC コンソールから『追加ウィザード』を使用しての登録

6.2.2 ホスト・ターゲットの追加ウィザードまたは EM CLI を使用したスタンドアロン Oracle Management Agent13c リリース 1 のインストール

6.2.2.5 ホスト・ターゲットの追加ウィザードまたは EM CLI を使用したスタンドアロン管理エージェントのインストール

注意事項)

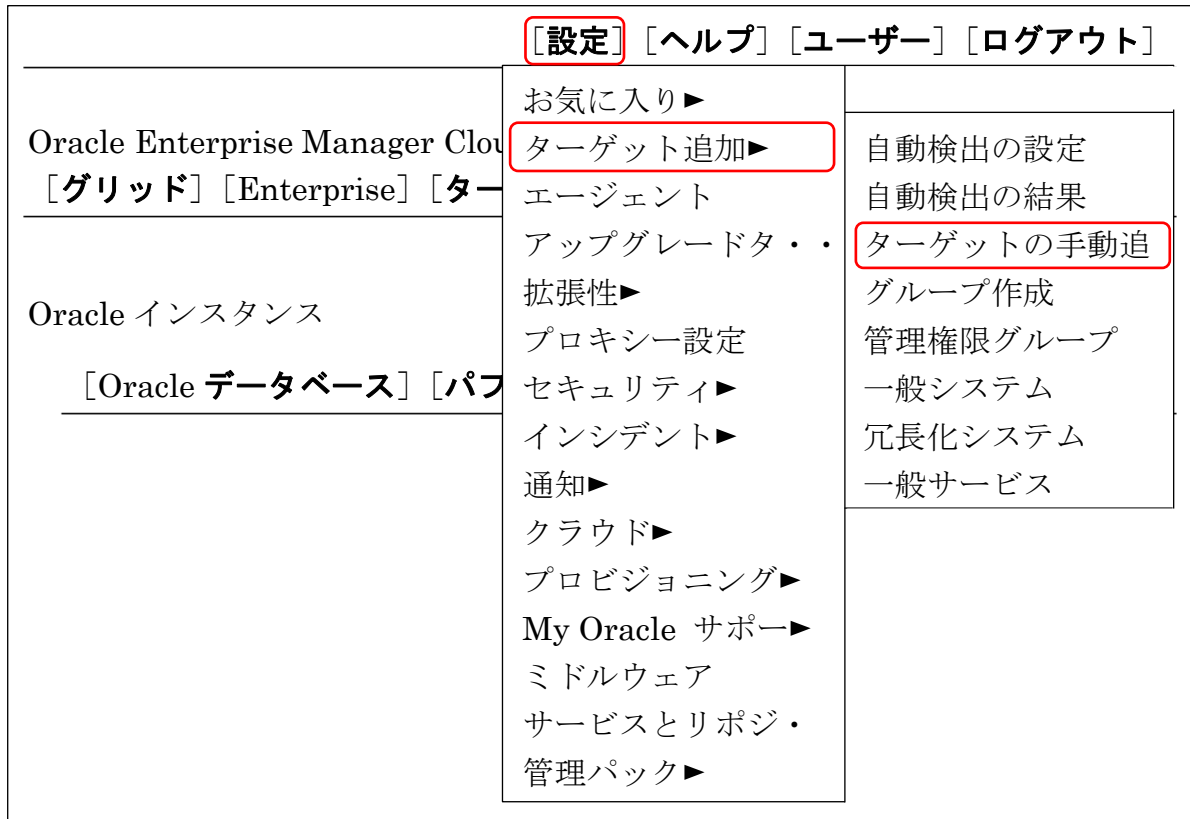
複数のホストに対してまとめてインストールを行った場合、途中のデプロイメント・フェーズでエラーが発生した場合、すべてのホストに対しての処理が中止されて、以降のデプロイメント・フェーズが実行されない

エラーが発生したホストだけインストール処理を中止させ、それ以外のホストに対して以降のデプロイメント・フェーズを続行させるには、OMS ホストにおいて以下の設定を行っておく

`$ORACLE_HOME/sysman/prov/agentpush/agentpush.properties` ファイルで、
`oracle.sysman.prov.agentpush.continueIgnoringFailedHost=true`
のように指定する

※ ホスト名にアンダースコア (" _ ") は、使用できない

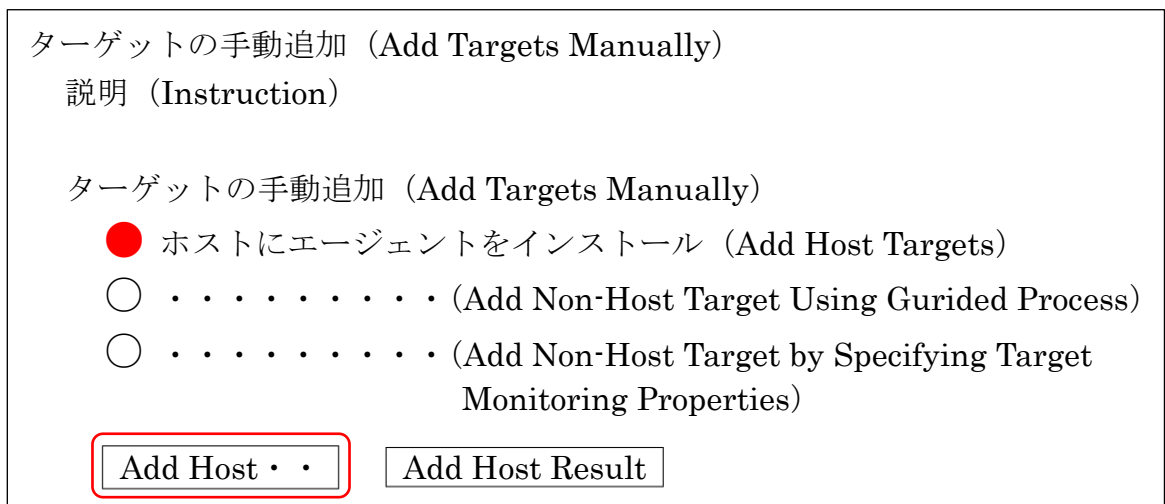
手順 1.



メニュー・「設定 (Set up)」 → 「ターゲットの追加 (Add Target)」
→ 「ターゲットの手動追加 (Add Target Manually)」

手順 2.

「ホスト・ターゲットの追加」画面が表示される



ここで、「 ホストにエージェントをインストール (Add Host Targets)」を選択し、
「ホストに追加 (Add Host . . .)」をクリックする

手順 3.

「ホスト・ターゲットの追加：ホストとプラットフォーム」画面が表示される

ここで、セッション名を入力する

セッション名とは、別の設定を行うときにこの名前のセッションを呼び出して、同一の入力値の手間を省くために使用するために付ける一意の名前である

よって、適当な名前を付けても構わない

The screenshot shows the 'Add Target' wizard with the following elements:

- Progress bar: Host and Platform (selected), Installation Details, Review
- Section: Add Host Targets: Host and Platform
- Text: This wizard enables you to install Management Agents on unmanaged hosts, thereby converting them to managed hosts. Enter a session name, and validate (or add) the hosts and their p
- Field: * Session Name: ADD_HOST_1_Apr_25_2014_9:05:22_AM_UTC
- Buttons: + Add, × Remove
- Menu: + Manually (highlighted), From File, Discovered Hosts
- Platform: Different for Each Host
- Table: Platform: Linux x86-64

次に、「追加」メニューから「手動」を選んでクリックして、

ホスト情報が表示さ

れているリストに、新規入力用の行を追加する

新規入力用の行が表示されたら、

The screenshot shows the table with the following data:

	Host	Platform
	DBserver 1 .Localdomain.com	Linux x86-64
	DBserver 2 .Localdomain.com	Windows x86-64
▼	Server00.localdomain.com	Windows x86-64 ▼

管理エージェントをインストールする OMA ホストに関して以下の項目を入力して、ターゲット・ホストを追加する

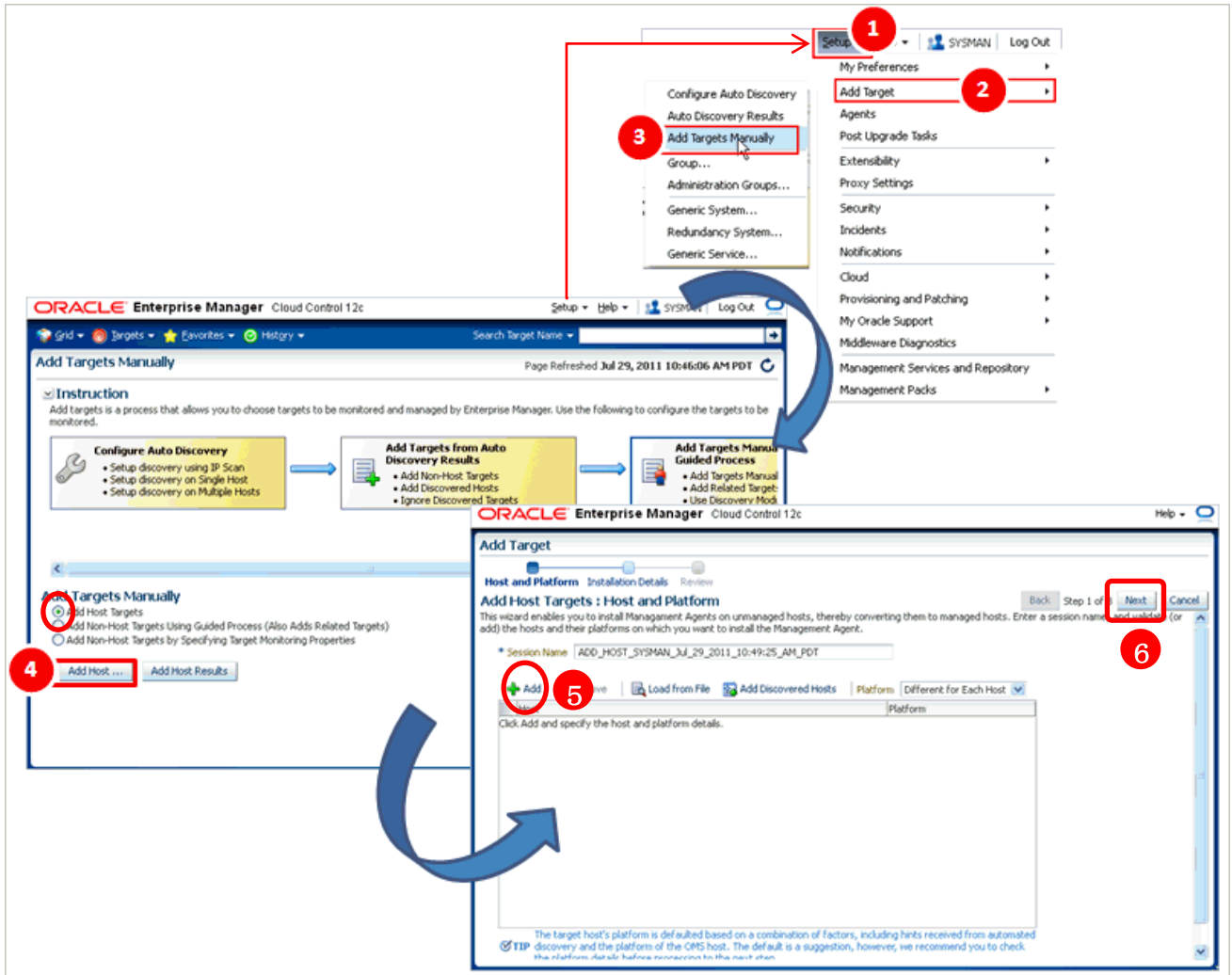
- ・ホスト名： **Server00.localdomain.com** のように対象ホスト全体を表す完全修飾されたホスト名
- ・プラットフォーム：ホストのプラットフォーム OS

※ ホスト名にアンダースコア("_")は、使用できない

※ プラットフォーム名の後に「エージェント・ソフトウェア使用不可」とある場合、そのプラットフォームのソフトウェアが OMS へダウンロードされていないことを意味する

すべての OMA ホストの追加入力が完了したら、「ホスト・ターゲットの追加：ホストとプラットフォーム」画面で、「次へ」をクリックする

画面遷移



メニュー・「**1** 設定 (Set up)」 → 「**2** ターゲットの追加 (Add Target)」
→ 「**3** ターゲットの手動追加 (Add Target Manually)」

「ターゲットの手動追加 (Add Target Manually)」の画面で、

「 ホストにエージェントをインストール」 (Add Host Targets)」

を選択し、「**4** ホストに追加 (Add Host . . .)」をクリック

「**5** 追加ターゲット (Add Target)」の画面が表示されるので、「追加 (Add)」
ボタンをクリックして、管理対象となる Oracle データベースのホスト情報を入
力する

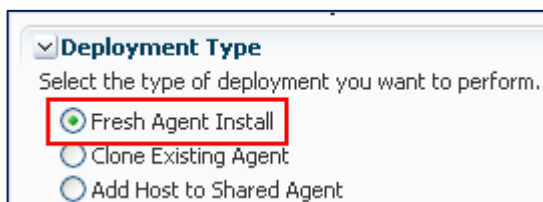
選択が終わったら、「**6** 次へ (Next)」ボタンをクリックする

手順 4.

「インストールの詳細」ページが表示される

ここで以下の入力を行い、入力が出来たら「次へ」をクリックする

- ・デプロイメント・タイプに、「新規エージェント・インストール」を選択する



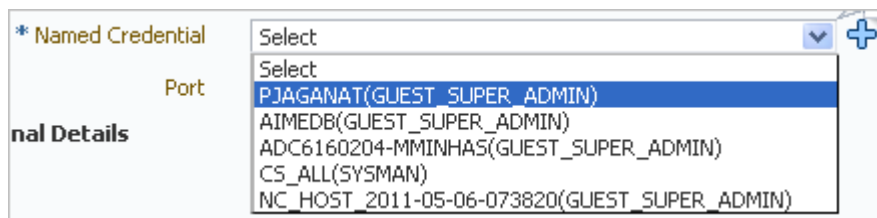
Deployment Type
Select the type of deployment you want to perform.

- Fresh Agent Install
- Clone Existing Agent
- Add Host to Shared Agent

- ・表から、共通のプラットフォーム名でグループ化されたホストを示す**最初の行**を**選択**

【インストールの詳細セクション】では、選択したホストの行に対して、インストール処理を行うための条件設定を行う

- ・インストールのベース・ディレクトリ
管理エージェントのソフトウェアをコピーする (エージェント・ベース・) ディレクトリへの絶対パスを入力
例: /u01/software/em13c/agentbasedir/
- ・インスタンス・ディレクトリ
管理エージェント関連の**構成ファイル**を格納するディレクトリへの絶対パスを入力
デフォルトのインスタンス・ディレクトリの場所のままでも可
例: /u01/software/em13c/agentbasedir/agent_inst
- ・名前付き資格証明
OMA ホストへインストールするために使用する SSH 接続の**資格証明プロファイル**を選択



* Named Credential

Select

Select

- PJAGANAT(GUEST_SUPER_ADMIN)
- AIMEDB(GUEST_SUPER_ADMIN)
- ADC6160204-MMINHAS(GUEST_SUPER_ADMIN)
- CS_ALL(SYSMAN)
- NC_HOST_2011-05-06-073820(GUEST_SUPER_ADMIN)

- ・権限委任設定
ルート・スクリプトの実行に使用する権限委任設定を指定
フィールドを空白のままにしておくと、ウィザードでは root スクリプトが実行されないため、**インストール後に手動で実行する必要がある**
使用出来る権限委任設定値

```
/usr/bin/sudo -u %RUNAS% %COMMAND%
```

```
/usr/bin/sudo -u -S %RUNAS% %COMMAND% (if a pseudo terminal is required for remote command execution via SSH)
```

```
/usr/bin/sesu - %RUNAS% -c "%COMMAND%"
```

```
/usr/bin/pbrun %PROFILE% -u %RUNAS% %COMMAND%
```

```
/usr/bin/su - %RUNAS% -c "%COMMAND%"
```

- ポート

管理エージェントとの通信用に割り当てるポート番号を指定

デフォルトのポート番号は、**3872**

- 「オプションの詳細」セクション

実行するインストール前スクリプトおよびインストール後スクリプトへの絶対パスを指定

※ スクリプトを **root** として実行するには、「**Root** として実行」を選択

スクリプトが、インストール先ホストには無く **OMS** が実行されているホスト上に有る場合、「**OMS** のスクリプト」を選択

- 追加パラメータ

インストール時に渡す追加パラメータの空白区切りのリストで入力
サポートされている追加パラメータのリストは、表 6-2 を参照

表にあるすべての行（ホスト）に対して、入力を繰り返して行う

すべての入力が完了したら、「次へ」をクリックする

手順 5.

「確認ページ」が表示される

ここで入力された内容に間違いがないか確認を行い、インストールを行うためには、「エージェントのデプロイ」をクリックする

これにより、管理エージェントのインストールが開始される

そして、デプロイメント・セッションの進捗を監視できる「ホスト・ステータスの追加」ページに自動的に遷移される

【特定のインストール・フェーズが失敗したか警告が表示された場合】

「ホスト・ステータスの追加」ページのエージェント・デプロイ詳細セクションにある各フェーズに関する詳細を確認し、次のうちの1つを実行する

注意： 失敗の原因を調査するには、ログ・ファイルを確認する

ホストごとにログ・ファイルが1つ生成されるため、複数のホストに管理エージェントをインストールする場合には、すべてのログ・ファイルの確認が必要となる

ログ・ファイルへのアクセス方法は、『Oracle Enterprise Manager Cloud Control アドバンスド・インストールおよび構成ガイド』を参照のこと

「ホスト・ステータスの追加」ページとは、前ページで「エージェントのデプロイ」をクリックした後に、デプロイの進捗を監視するために自動で遷移させられるページ

エラー内容を確認し原因が究明できた場合

→ インストール詳細が**同じ**である管理エージェントのデプロイを再試行する
「ホスト・ステータスの追加」ページで、「再試行」をクリックして、「同じインプットを使用して再試行」を選択する

→ インストール詳細が**変更**された管理エージェントのデプロイを再試行する
「ホスト・ステータスの追加」ページで、「再試行」をクリックして、「インプットを更新して再試行」を選択する

警告または失敗を無視して、セッションを続行する場合

→ チェックを正常にクリアしたリモート・ホストのみで管理エージェントのデプロイを続行するし、警告または失敗のステータスを持つホストは処理を中止する
「ホスト・ステータスの追加」ページで、「続行」をクリックして、「失敗したホストを無視して続行」を選択する

→ 警告または失敗のステータスを持つホストを含むすべてのホストで、管理エージェントのデプロイを続行する

「ホスト・ステータスの追加」ページで、「続行」をクリックして、「すべてのホストを続行」を選択する

※ このオプションを選択すると、管理エージェント・インストールを続行するための前提条件が無視されてしまうので、すべての前提条件が満たされていることを手動で確認することが必要である

Oracle Support の支援を得て実行するか、これらのチェックを実行しない場合の影響を十分理解したうえで行うこと

スタンドアロンOMAのインストール確認作業

6.2.2.6 ホスト・ターゲットの追加ウィザードまたは EM CLI を使用してスタンドアロン管理エージェントをインストールした後に より

手順 1.

OMS ホスト

インストール処理における各段階（進行、初期化、リモートの前提条件チェック、エージェント・デプロイ）について EM CLI コマンドで `get_add_host_status` オプションを指定して確認する

- ・カレント・ディレクトリを<ORACLE_HOME>へ変更する

```
cd <ORACLE_HOME>
```

- ・インストール・ユーザーとして、EM CLI へログインする

```
./bin/emcli login -username=sysman
```

- ・EM CLI を同期します。

```
./bin/emcli sync
```

- ・更新する Oracle Management Service インスタンスに、アーカイブをインポートする

```
./bin/emcli get_add_host_status -host_name=<ホスト名>
```

指定例) Server00.localdomain.com

手順 2.

OMA ホスト

インストールした後の状態を検証

- 2.-1 管理エージェント・ホームに移動して EM CTL 次のコマンドを実行する

```
$(AGENT_INSTANCE_HOME)/bin/emctl status agent
```

管理エージェントが動作していることを確認するメッセージが表示される

- 2.-2 管理エージェント・ホームに移動して次のコマンドを実行する

```
$(AGENT_INSTANCE_HOME)/bin/emctl upload agent
```

EMD アップロードに関するメッセージが表示されるので正常完了を確認する

- 2.-3 インストールした管理エージェントが稼働確認

メニュー・「設定」 → 「Cloud Control の管理」 → 「エージェント」
インストールした管理エージェントが稼働していることを確認する

手順3.

OMA ホスト

プラグインが正常にインストールされたかどうか確認

次のコマンドを実行

```
$(AGENT_INSTANCE_HOME)/bin/emctl listplugins agent -type all
```

このコマンドにより、\$(AGENT_BASE_DIRECTORY)/plugins.txt ファイルにインストールされたプラグインの一覧が出力されるので、このファイルの内容を確認する

手順4.

OMA ホスト

タイムゾーンの設定

間違ったタイムゾーンの設定に関する前提条件チェックの警告を無視した場合、次のコマンドを実行しタイムゾーンの設定を行う

```
$(AGENT_INSTANCE_HOME)/bin/emctl resetTZ agent
```

このコマンド結果で表示される詳細な手順を実行して、タイムゾーンの設定を行う

その他.

Microsoft Windows ホストで、管理エージェントのデプロイ場所(管理エージェントの Oracle ホーム)を調べるには、<INVENTORY_LOCATION>%inventory.xml にアクセスして、HOME NAME="agent12c2"を検索する


LOC パラメータの値が管理エージェントの Oracle ホームです

例)

C:%Program Files%Oracle%inventory.xml ファイル

```
<HOME NAME="agent13c1" LOC="D:%agent13cr1%agent_13.1.0.0"
  TYPE="O" IDX="10">
```

管理エージェントの Oracle ホーム



EM CLI コマンドを使用する際のスタンドアロン管理エージェントのインストール

https://docs.oracle.com/cd/E74608_01/131/EMBSC/install_agent_new.htm

→ 6.2.2.5.3 EM CLI を使用したスタンドアロン管理エージェントのインストールを参照